

北國新聞社は29日、創刊130年を記念し、117年前の1906（明治39）年に行われた北陸初の自転車ロードレース「北國新聞社自転車大競走」の再現企画を、金沢市の尾山神社を出発点に行う。能登半島を自転車で巡る「ツール・ド・のど400」（同実行委、北國新聞社主催）の源流となった大会で、試走自転車が当時の道りをたどり、北陸の自転車競技の歴史をひもとく。

北國新聞社が主催した自転車大競走は明治39年10月14日に行われた。当時の本紙によると、沿道は黒山の人だかりができるほどの盛り上がりで、「北陸未曾有の壮挙」と伝えられた。この流れを組み、1989（平成元）年にスタートしたのがツール・ド・のどで、今年35回目を迎える。

明治の大会は東西二つのコースで行われ、東は金沢―七尾（往復約128㎞）、西は金沢―大聖寺（同96㎞）だった。再現企画もこれにならない、出発点を尾山神社とし、内灘町―宝達志水町―羽咋市―七尾市を巡る東コース（片道69・4㎞）、白山市―小松市―加賀市を進む西コース（同49・7㎞）を設ける。

本紙で連載の一青妙さん参加

石川県自転車競技連盟のスタッフらが、明治の大競走と同じく、東部隊、西部

ツール・ド・のど源流 117年前 明治39年「北國新聞社自転車大競走」

北陸初自転車レース再現



ツール・ド・のどで内灘大橋を渡るサイクリスト
＝2018年9月、内灘町



2、3面に日曜特番

隊に分かれてそれぞれ「妙なり」を連載するエッセルを目指す。本紙で「人生、イストで俳優の一青妙さん

130 北國新聞
創刊130年

29日号砲 尾山神社起点、七尾、加賀へ

がツール・ド・のど参加経験を生かして、西コースを走る。今年、新築工業（大阪市）が協賛する。今年、旧山中町（現加賀市）では9月16日から3日間の開催となる。